

平成 24 年 7 月 12 日

保護者のみなさま

龍谷大学附属平安中学高等学校
校長 燧 土 勝 徳

お 願 い

盛夏の候 保護者のみなさま方には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動にご理解・ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

先日来「大津市中学校 2 年生いじめ自殺事件」が、連日のように報道されております。特にインターネットの普及で、今後、急速にブログやツイッター・ラインなどでの「いじめ」が広がっていくことも懸念されます。

7 月 11 日付朝日新聞「天声人語」に、次のような文章がありました。

「以前、いじめ問題で取材した小学校の先生は、担任するクラスを『海』にたとえた。教壇から毎日見ていると何でも分かったような気になってしまう。でも見えているのは何十分の一にすぎない。子どもの世界という広くて深い海の中で、何が起きているのか。把握するのは本当に難しい、と。この先生は深刻ないじめに気づかずにいた。だが気づいたあとが立派だった。いじめとは何か、なぜいけないかを、時間をかけてクラスに浸透させた。いじめは許しませんという真っすぐな意思が、子どもの心に響いていった。(中略)」

これに対し、今回の場合はどうだったでしょうか、考えさせられます。

「少し救われるのは、全校生徒へのアンケートのいくつかの答えだ。『自分も見ても見ぬふりをしていて、これも立派ないじめと気づいたときは、本当に申し訳なかった』。悔いはみんなの糧となろう」と記されていました。

いつも申しておりますとおり、本校では、社会的に問題になるような「いじめ」は今のところございませんが、「いじめ」の概念をどう定義づけるかということであろうかと思えます。文部科学省では、次のような行為を「いじめ」と定義しています。「いじめとは、当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているものとする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない」

当然、「いじめ」はないことが望ましいことです。しかし、私たち教職員から見えないところで起こっている可能性もあります。同じように、保護者からも見えないところで「いじめ」が起こっている可能性もあります。

本校では、仏参や宗教行事をとおして、また、日々の授業を通じて、他人に対する思いやりの心・自制(自分自身で自分の心をコントロールすること)・他人と力を合わせて協力し、周りとの調和を重んじることの大切さを伝え、「こころの知性」を磨いています。

「ことば」は心の表れだから、素直な心と謙虚な心を持って、常に心を整えるようにしなさい。「じかん」は時々刻々と進んでしまいます。今日すべきことを明日に延ばしてはいけません。今という時間を大切にしなさい。「いのち」は、すべてのいのちのつながりの一つとして私がある、と捉えるものです。これは、私を中心に私の目で、周りを眺める立場をとるものではありません。謙虚さの目でもって世の中を見、また、自己をも見つめる姿勢が基本です。この私のこの「いのち」は実は預かりものです。預かっているからこそ粗末にはできないのです。大事に預かるとは、預かっている間中しっかり磨きをかけておくということです。磨く人は親でも先生でもありません。預かっている本人である自分しかいません。また磨く時は今です。しっかり磨きなさい…という教育を実践しております。

つきましては、保護者のみなさまにも、以下のお力添えをいただきたくお願い申し上げます。何とぞご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

- 「いじめを受けている生徒がいる」と分かれば、すぐに学校へご相談ください。また、その生徒を孤立させないようにと、子どもさんにお伝えください。
- 「いじめを受けている」ということが分かれば、すぐに学校へご相談ください。また、子どもさんの何かしらの変化を感じられた時も、すぐに学校へご相談ください。